
「プランクトン工学研究」編集委員

秋月真一（プランクトン工学研究所）

岸 正敏（プランクトン工学研究所）

桑原ビクター伸一（教育学部）

佐々木諭（看護学部）

伴 修平（滋賀県立大学）

古谷 研（大学院理工学研究科・プランクトン工学研究所）編集委員長

「プランクトン工学研究」投稿規定

創価大学プランクトン工学研究所紀要「プランクトン工学研究」は原著論文、総説、短報、研究情報、その他編集委員会が認めた原稿を掲載する。このうち原著論文、総説、短報は他の学術誌に印刷されたことがなく、また印刷予定のないものとし、責任ある研究活動の成果について研究倫理を遵守してとりまとめられたものでなければならない（参考「科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—」日本学術振興会 (2015)、<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>）。すでに印刷された図表ならびに本文 200 語以上の引用にあたっては著者の責任において著作権所有者の許諾を得るものとする。原稿は図表を含め編集委員長宛（古谷 研 furuya@soka.ac.jp）に送付すること。掲載されたすべての報文の著作権は創価大学プランクトン工学研究所が所有する。

原稿（以降テキスト部分を原稿と呼ぶ）の用語は和文とするが英文も受け付ける。和文論文では、要旨と図表の説明文には必ず英語を用いる。その他の原稿の図表の説明文はこの限りではない。A4 判で作成し、行間を 1.5 行とし、全ページにページ番号と行番号を付する。本文のフォントは明朝体系フォント 12 ポイントを、英文、学名、数値、単位、数式等については欧文用セリフ系フォント 12 ポイントを用いる。全角の英文フォントは用いない。

原稿第 1 ページ目には、表題、著者氏名、所属、住所を和英両文で書き、柱用の表題略語を和文 35 文字以下で指定する。また、責任著者の電子メールアドレスを書く。連名の著者が異なる所属である場合は、著者順に所属に連番を付して著者名の右肩に所属番号を付して区別する。

第 2 ページ目には要旨を書く。要旨には必ず英語を用い、報文全体の概要がやや詳しく示されるように 500 語程度にする。要旨の下に 5 つ以内のキーワード（英語）をアルファベット順に併記する。

本文はページを改めて書き始める。原著論文では緒言（序言、はじめに等）材料と方法、結果、考察、謝辞、引用文献、図の説明の順とし、総説では必要に応じて章立てを行い、短報では緒言から謝辞までをわけずに書く。

学名は斜体とし、その表記は藻類においては最新の国際藻類・菌類・植物命名規約、動物においては最新の国際動物命名規約に従う。属名は緒言、材料と方法、結果、考察のそれぞれの初出、および文頭では略さず表記する。

単位は原則として SI 単位（第 9 版）を用いる。慣例により非 SI 単位を用いることがある。単位は次のように表記することとする： m^2 、 m^3 、 L 、 L^{-1} 、 mL 、 mL^{-1} 、 ind 、 L^{-1} 、 $inds$ 、 m^2 、 mM 、 μM 、 nM 、 $cm\ s^{-1}$ 、 $cm\ min^{-1}$ 、 $km\ h^{-1}$ 、 $\mu g\ C\ m^{-2}\ d^{-1}$ 、 $g\ C\ m^{-2}\ y^{-1}$ 、 $\mu mol\ (photons)\ s^{-1}\ m^{-2}$ など。単位と数値の間、演算記号の前後、単位の積における単位同士の間は半角スペース空ける。

表は一つずつページを改め、上欄にそれぞれの説明文（英文に限る）を付した後、番号順に引用文献の次におく。確率等の説明は説明文に入れる。例外的な事項の説明には、表中に肩記号を付して脚注に補足説明を置くことができる。図の説明文（英文に限る）は、本文を参照することなくそれ自体で一応の意味がわかるように書き、表の次にページを改めて一括して列挙する。図や写真は A4 版で受付ける。図中の説明は英文で作成する。図中の数字、記号、説明等のフォントは欧文用サンセリフ系フォントを用い、主要な文字や記号のサイズは 18 ポイント、最小でも 12 ポイント以上とすることを推奨する。

本文中の文献引用は、著者が複数で 2 名のときは佐藤・斉藤 (1980) または (Sato & Saito 1980)、3 名以上のときは（佐藤ほか 1980）または Sato et al. (1980) のようにする。カッコ内の著者名と出版年の間は半角スペースで区切る。複数の論文を引用するときは、（佐藤ほか 1980、山田ほか 2010）のように半角カンマと半角スペースで区切り、出版年、筆頭著者の姓のアルファベット順とする。投稿中の論文は引用できないが、（私信）または (personal comm.) か、（未発表）または (unpubl.) とすることができる。卒業論文、修士論文、学会講演要旨集は引用不可とする。

引用文献リストの書き方は別項を参照すること。その他の不明の事項については本紀要の最新号に掲載の報文を参考にするか、編集委員に問い合わせること。

表紙写真：相模湾に生息する内湾性カイアシ類 *Acartia steuerei*
(撮影者：高山佳樹)

引用文献の書き方

引用文献表はページを改め、本文の次に入れる。文献の配列は著者名(姓)のアルファベット順と出版年順に従う。文献表の書き方は、(), . : などの記号や書体に注意を払い、次の例にならう。引用文献表中では et al., Ditto, Ibid. などの語は使用しない。著者名や年号が不明なインターネット上の情報は本文中でその URL と参照年月日を記述する。

1. 筆頭著者が同じ場合、単著、共著の順とする。
2. 著者が 11 名を超える文献は、順に 10 名までを記述し、11 名以降は「～ほか」または「et al.」と表記する。
3. アルファベットの著者名は、Family name を先に、given name や middle name のイニシャルを後に記述する。(例：Smith KL Jr, van der Wal EJ, Marshall J-A)
4. 姓か名が漢字 1 文字の場合は、姓と名の間を全角 1 字あける(例：吉水 翔, 岸 正敏)。
5. 和文雑誌名は原則として省略しない。欧文雑誌名は CAS Source Index (CASSI) (<https://cassi.cas.org/search.jsp>) に登録された略称をピリオドを省いて記載する。CASSI に出ていないタイトルの略語については ISSN International Centre の List of Title Word Abbreviation (LTWA) (<http://www.issn.org/services/online-services/access-to-the-ltwa/>) に準拠する。例外的に Nature 誌は Nature, Science 誌は Science と表記する。
6. 英語以外の外国語で書かれた文献は末尾に (in Chinese) のようにし、英文要旨がある場合は、(in Greek with English abstract) のように記載する。

[例]

論文

中尾賢志 (2019) 閉鎖性水域における栄養塩類管理を目的とした下水高度処理の運転管理。用水と廃水 61: 655–661.

Cervantes-Avilés P, Keller AA (2021) Incidence of metal-based nanoparticles in the conventional wastewater treatment process. Water Res 189: 116603. (論文番号のみの場合)

Wangpraseurt D, You S, Azam F, Jacucci G, Gaidarenko O, Hildebrand M, Kühl M., Smith AG et al. (2020) Bionic 3D printed corals. Nat Commun 11: 1748. (著者が 8 人以上の場合)

Bakraoui M, Karouach F, Ouhammou B, Aggour M, Essamri A, El Bari H (2020). Biogas production from recycled paper mill wastewater by UASB digester: Optimal and mesophilic conditions. Biotechnol Reports 25: e00402, doi.org/10.1016/j.btre.2019.e00402 (電子版のみの場合)

単行本

小久保清治 (1932) 浮游生物分類学。恒星社厚生閣、東京、394 pp, 34 pls.

高原義昌 (編著) (1980) 廃水の生物処理。地球社、東京、384 pp.

Speece RE (1996) Anaerobic Biotechnology for Industrial Wastewaters. Archae Press, Tennessee, 393 pp.

Pimental DR (ed) (2002) Biological Invasions: Economic and Environmental Costs of Alien Plant, Animal, and Microbe Species. CRC Press, Boca Raton, 369 pp.

単行本の章

田中剛・嶋田礼迪 (2020) “海洋微細藻による燃料・化成品生産技術。” 脱石油に向けた CO2 資源化技術—化学・生物プロセスを中心に— (湯川英明編)。シーエムシー出版、東京、pp. 293–309.

学位論文

阿部憲一 (2012) 生物膜型廃水処理における亜硝酸化の制御。長岡技術大学大学院工学研究科学学位論文。

Katayama T (2015) Photoprotective acclimation of xanthophyll pigments to high light in marine diatoms. PhD thesis, Soka University, Japan.

報告書

水産庁九州漁業調整事務所 (1993) 平成 4 年九州海域の赤潮。水産庁、67 pp.

United Nations World Water Assessment Programme (WWAP) (2017) The United Nations World Water Development Report 2017. Wastewater: The Untapped Resource. UNESCO, Paris, 180 pp.

インターネット上の公開データベース等の引用

WoRMS Editorial Board (2019) World Register of Marine Species. <http://www.marinespecies.org> (2019 年 6 月 10 日アクセス)

2021 年 6 月 28 日発行



発行所 創価大学プランクトン工学研究所
〒192-8577 東京都八王子市丹木町 1-236
E-mail: plankton-eco-eng@soka.ac.jp
URL: <https://www.soka.ac.jp/perc>

印刷所 (株)プリンテック
〒193-0835 東京都八王子市千人町 2-8-20
Tel: 042-629-9231